日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
教会教育部

教会学校　教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1．みことば

祈りながら今週のテキスト（聖書箇所）を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、憶えましょう。

2．主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例　○：イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。（×：カナの婚礼と奇跡）

3．教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4．メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。
◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト　http://ce.ag-j.or.jp/

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教　師　ノ　―　ト

日付	2014年　3月　9日
単元	ルカの福音書
テーマ	あわれみ
タイトル	良きサマリヤ人
テキスト	ルカ10：25－37
参照箇所	

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
ルカ10：27

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
幼 1 題 3 課 1、小下 1 題 1 課 4、小上 2 題 1 課 4、中 1 題 4 課 12

❑導入

人々はよくイエス様に質問をしました。ある時、こんな質問をしました。「イエス様、いちばん大切な教えは何でしょうか。」イエス様はその人に「聖書には何と書いてありますか」とおっしゃいました。するとその人は答えました。「『あなたの隣人を自分を愛するように愛しなさい』と書いてあります。」イエス様は、「そのとおりです。だからあなたもそのようにしなさい」。とおっしゃいました。しかしその人は続けて質問しました。『自分を愛するように隣人を愛する』とはどういう意味ですか」と聞きました。そこでイエス様は、その人の質問に答えるために、あるたとえ話をお話しになりました。

❑ポイント1　ある旅人が強盗に襲われて半殺しにされました（30節）

あるユダヤ人の旅人が、エルサレムからエリコという町に向かって旅をしていました。エルサレムからエリコまで約30キロメートル、標高差1000メートル以上ある険しい道のりでした。この道は危険なことで知られていました。

しばらく歩いていると、突然、「おい！金を出せ」と強盗が飛び出してきたのです。旅人はどんなに驚いたでしょう。慌てて逃げようとしましたが、強盗たちに囲まれてしまいました。強盗たちは、あっという間に旅人の持っているものを全部取り上げ、洋服まではぎ取って、ボコボコに殴りつけ逃げていきました。旅人はその場に倒れて、もう起き上がることもできませんでした。

❑ポイント2　祭司とレビ人は旅人を見ても助けませんでした（31－32節）

しばらくすると、そこを一人の祭司が通りかかりました。祭司は、神殿で神様のために働いている人です。「おや。あそこにだれか倒れているぞ」と気がつきましたが、「あの人は死にかかっている。助けても何もならないだろう」「面倒なことに巻き込まれないようにしよう」と考え、助けようともしないで、道の反対側をさっさと行ってしまいました。

次にレビ人がやってきました。レビ人も神様のことをよく知っている人です。倒れている旅人を見つけると、「ああ、強盗にやられたのか。大変だな」と思いましたが、「急かないと私まで強盗に襲われるかも知れない」。と考え、声もかけずに道の反対側を通って行ってしまいました。

祭司とレビ人は神様と人々に仕える人たちで、困っていた人がいたら当然助けてあげるだろうと思われる人たちでした。けれども同じユダヤ人が道端に倒れている姿を見ても、なんと反対側を彼らは通り過ぎて行ったのでした。祭司もレビ人もこの可愛そうな旅人を助けませんでした。

❑ポイント3　サマリヤ人は旅人を見てあわれに思い助けました（33－35節）

しばらくすると、ロバに乗って三人目の人がやって来ました。その人はサマリヤ人でした。

その人は道ばたに倒れている人を見つけると、「あっ、大変だ。人が倒れている!」と駆け寄って行きました。そしてその人に「大丈夫ですか。しっかりしてください。」と声をかけました。よく見てあることに気づきました。この人はユダヤ人だったのです。当時ユダヤ人とサマリヤ人は敵対関係にありました。ユダヤ人は、サマリヤ人をとても嫌っていました。もちろん、サマリヤ人もそのようなユダヤ人を深く憎んでいました。しかしこのサマリヤ人は、そんなことを気にしませんでした。目の前にいる傷だらけで倒れている人を、かわいそうに思ったので助けることにしたのです。

まずこの旅人の傷にぶどう酒をかけて消毒しました。そしてオリーブ油を塗って傷の手当をし、包帯をしました。それから自分のロバにその人を乗せて、近くの宿屋に連れて行きその人を看病しました。そして「心配しなくてもいいですよ。すぐ良くなるから」と親切なやさしい言葉をかけてあげました。

朝になると、サマリヤ人は宿屋の主人の所に行って言いました。「あのユダヤ人は、今朝はとても良いようです。けれどもまだ弱っています。もうしばらくの間ゆっくり休んで、食べ物も十分食べなければなりません」。そしてサマリヤ人は宿屋の主人にお金を渡して、「私はもう行かなければなりません。この人の面倒を見てあげて下さい。もっとお金がかかったら、帰りに私が払います」と言ってお願いしました。

結論　あなたも同じようにしなさい

それからイエス様は、さっき質問した人に言われました。「さあこの三人のうち、どの人が旅人の隣人になったと思いますか。」その人は「その旅人を親切に助けてあげた人です」と答えました。

イエス様は「あなたも行って同じようにしなさい」。「困っている人を助けてあげなさい。そしてよい隣人になりなさい」と言われました。

適用

1. みなさんは、だれかに親切にされたことがありますか？親切にされたとき、どう思いましたか？本当にうれしいですね。ですから私たちも、困っている人に気づいたら、自分から助けてあげられるようになりたいですね。

2. イエス様は「隣人を愛しない」と言われました。自分にとって好きな人だけではなく、嫌いな人もみんな隣人であり、すすんで愛するようにとイエス様は教えられたのです。みなさんはどうでしょうか？私たちに出来ますか。自分の思いで、そして力で頑張ってみても出来ない時があるのが私たちではないでしょうか。どうしたら「隣人を愛する」ことができるのでしょうか。まず、隣人を愛せないような罪人の私のために、イエス様が私の隣人となり、私の罪の身代わりとなって十字架にかかって下さったことを信じましょう。そして信じた人に、イエス様が愛する力を下さるので、祈り求めていきましょう。

教　師　ノ　―　ト

日付	2014年　3月16日
単元	ルカの福音書
テーマ	神の愛
タイトル	放蕩息子
テキスト	ルカ15：11－24
参照箇所	

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
ルカ15：18

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
幼 1 題 2 課 6、小下 1 題 1 課 7、小上 3 題 3 課 5、中 2 題 3 課 10

❑導入

今日のお話しは、昔から「放蕩息子のたとえ」と言われてきたお話しです。イエス様のたとえ話しの中でも、とても有名なお話しの一つです。

❑ポイント1　ある人に二人の息子がいました（11－12節）

ある所に二人の息子を持ったお金持ちが住んでいました。お兄さんは一生懸命にいつも働いていました。でも弟は働くのがきらいで、今の生活から抜け出し、一人で自由に遊びたいと思っていました。

ある日のことです。弟はお父さんに言いました。「お父さん、ぼくは実は町へ行きたいんです。」お父さんは答えました「町へ行ってどうするんだ」弟は答えました。「僕は町へ行って、いままでしたいと思っていたことを、全部したいと思うんです。こんな田舎にいたって、つまらないんです」「ですから、お父さんが死んだら、将来僕がもらうはずの財産を、先にもらえませんか」とお願いしました。お父さんは息子にイロイロと話しをしてみましたが、まったく聞きませんでした。弟はお金をもらって町に行く、と決心をしていたのでした。そこでお父さんは考えた結果、財産を分けてあげることにしました。

❑ポイント2　弟は家を出て行きました（13－19節）

弟は財産を分けてもらうと、何日もたたないうちに、自分の荷物をまとめて、町へと旅立ちました。町は遠いところにありました。

彼はやっとのことで町につきました。町は自分が考えていた以上に魅力がありました。彼は遊ぶには十分なお金を持っていたので、毎日お酒を飲んだり、ごちそうを食べたりして自由に暮らしました。お金をどんどん使うのでそのお金を目当てにたくさんの人たちがお友だちになりました。しばらくは本当に楽しい毎日でした。けれども、いつの間にかお金を使い果たしてしまいました。彼はお金がなくなると、いままで一緒に遊んでいた友達にお金を貸してくれるように頼みました。でも誰も遊びのためになんかお金を貸してはくれませんでした。今までお友だちと思っていた人たちは一人、また一人と相手にしてくれなくなりました。彼はこの遠い町でお金もなく一人ぼっちになってしまいました。

彼はしょうがないので仕事をすることにしました。仕事を探し始めたのですが、だれも雇ってくれません。ちょうどその頃その地方を飢饉がおそっていたので、どの家でも食べるのに大変でした。彼はやっとのことで豚を飼っている農家で仕事をさせてもらうことになりました。ユダヤ人のお金持ちのむすこにとって、これはとても大変な仕事でした。ユダヤ人は豚を『きたない・汚れている』と教えられ育ちます。ですから彼も豚には近づいたこともなければ、もちろん食べたこともありませんでした。でもそれは自分のせいでした。彼は少しの食べ物でももらうためにどんな事でもしなければならなかったのです。その上、その農家の雇い主は、充分な食べ物をくれませんでした。彼はとにかくお腹がすいていたので、豚が食べているえさまで食べたくなりました。

その時、はじめてこの人は自分がまちがっていた事に気がついたのです。
「とにかく、お父さんの家へ帰ろう。そして僕は自分勝手な事をして罪を犯しましたとあやまろう。お父さんは僕を召使の一人にしてくれるかもしれない。それでもここで豚を飼っているよりはずっとましだ」と決心しました。
家を出る時は威張って、そして町でもぜいたくをしていたのに、帰る時はとてもみじめでした。

❑ポイント3　父親は帰ってきた弟を喜んで迎えました（20－24節）

息子はすぐに長い道のりを家に向かって出発しました。そのころ、お父さんは毎日愛する息子が帰ってくるのを待っていました。
ある日のことです。お父さんはいつものように息子が行ってしまった方を見ていました。その時です。お父さんの目に誰かがこちらに近づいて来るのが見えました。それはみすぼらしい、ボロボロの服を着た人でした。けれどもよく見ると、自分の息子と同じような歩き方をしています。本当に息でしょうか?その人は少しずつこちらに近づいて来ました。「ああ、やっぱりそうだ、私の愛する息子だ」。
お父さんはこう叫ぶと、息子を迎えに走っていきました。お父さんはボロボロの服を着た息子を抱きしめました。「我が子よ、よく帰って来てくれたなあ、お父さんは本当に嬉しいよ」と言って泣いて喜びました。お父さんはもうそれ以上何も言えませんでした。すると息子が「お父さん、僕は悪い事をしました。僕はもうあなたの息子と呼ばれる資格はありません。どうぞ召使の一人にして下さい」と言いました。けれどもお父さんは召使の一人に「一番良い服を持って来なさい」「そして靴をはかせ、手には指輪をはめさせなさい」。「それから太った子牛を殺して料理しなさい」。「むすこが帰って来たことをみんなに知らせて、ごちそうをしてみんなで喜びお祝いしよう」と言いました。そしてお父さんはこの弟むすこを赦してくれたのです。

❑結論　お父さんは息子のことを愛していました

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

1. お父さんがこの息子を赦し、喜んで家に迎え入れたように、私たちも悪い事をした時に、「自分が悪かった」と気がついて、神様におわびするなら、赦して下さることを知りましょう。

2. イエス様は今日のお話しで、私たち一人一人に対する父なる神様の愛とあわれみが、どのようなものであるかを教えておられます。私たちが罪の中にある時でも、自分の罪を認めて神様に「ごめんなさい」と悔い改めのお祈りをするならば必ず赦して下さいます。「もう遅すぎる」ということも、「もう手遅れだ」ということもありません。いまみんなの中で、自分の罪を示される人がいるならば、神様に悔い改めのお祈りをしましょう。

教　師　ノ　―　ト

日付	2014年　3月23日
単元	ルカの福音書
テーマ	感謝
タイトル	十人の皮膚病のいやし
テキスト	ルカ17：11－19
参照箇所	

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
　Ⅰテサロニケ5：16－18

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
　幼 1 題 4 課 14、小下 3 題 2 課 11、小上 3 題 5 課 8、中 2 題 3 課 12

❑導入

　今日のお話は、イエス様に重い皮膚病（らい病）を治してもらったので感謝した人のお話です。

❑ポイント1　重い皮膚病の人たちがイエス様にお願いしました（1－2節）

　ある日、イエス様はエルサレムに向かっていました。昔は今のように電車や白動車もありません。自転車だってもちろんありません。ですから歩いて行きました。途中サマリヤとガリラヤの間のある村に入ろうとした時です。遠くの方でこちらを見ている人たちがいました。彼らは遠くの方から大きな声で、「イエス様、私たちをあわれんで下さい」と叫びました。この人たちは、「イエス様が病気の人を治した」。と言うウワサを聞いていました。ですから、もしお願いすれば自分たちも助けて下さると思って、「イエス様、私たちをかわいそうに思って助けて下さい」と叫んだのです。彼らは一生懸命でした。

　この人たちはイエス様のそばまで来ようとはしませんでした。遠い場所から離れて、助けて下さいと言っています。イエス様は、この人たちのことがすぐにわかりました。この人たちは重い皮膚病にかかっていたのでした。当時、重い皮膚病の人は、他の人にうつらないように、人から離れて町や村の門の外側に住まなければならなかったのです。又、道を歩く時は、健康な人たちが、間違って、自分たちに触れない様に、「私は重い皮膚病です」と大声を上げて歩かなければなりませんでした。それも健康な人たちからは遠く離れていなければなりません。それだけではなく、この病気にかかると「汚れた者」と呼ばれたのでした。

　この病気を治せるお医者さんはいませんでした。ですから、この病気にかかった人たちは、どこかでひとり、死ぬのを待っていなければならなかったのです。この皮膚病はとても恐ろしい病気でした。彼ら十人は遠く離れ必死になって「イエス様、私たちをかわいそうに思って助けて下さい」と言いました。

❑ポイント2　重い皮膚病の人たちはイエス様に従いました（2－8節）

　イエス様は彼らを見つめられました。そしてこのように言いました。「行って、あなたがたの体を祭司に見せなさい」。この病気は神様に呪われ、汚れた、特別の病気であると考えられていました。ですから病気が直ったかどうかを調べて、家族の所へ戻って、一緒に生活してもいい、と判断し認めるのは、神様に仕える祭司たちの仕事でした。イエス様は、すぐ、その場で病気を癒さずに、祭司たちの所へ行く途中に病気が癒される、と言われたのです。

　しかし、祭司たちはここにはいません。祭司は遠いエルサレムの神殿にいたのでした。彼らは二、三日かけて、そこまで行かなければなりませんでした。まだ病気は直っていません。エルサレムへ行っても、直っている保証はありませんでした。途中でいろんな人たちに会うことでしょう。そんなときには、イチイチ気を使って歩かなければなりません。夜になっても、彼らを泊めてくれる旅館なんてありませんでした。けれども彼らは、イエス様の言われたエルサレムに向かって歩き出しました。

❑ポイント3　重い皮膚病はいやされました（9－12節）

十人の人たちは、エルサレムへ向かって歩いているうちに、気分が良くなってきました。体に力がついてきたこともわかりました。体中にあった、ひどいおできも治りました。のども良くなったので、大声で叫ぶことも出来ました。お互いの顔や体を見た時に、本当にビックリしました。十人の人は道を急いで行く間に、完全に病気が治ったのです。それはイエス様を信じて、言う通りに従ったからです。「イエス様って何て素晴らしい人だろう!神様、感謝します!ハレルヤ」とこの人たちは喜びの声をあげました。

その時、一人のサマリヤ人は病気が治ったので、他の九人のユダヤ人に、「すぐイエス様の所へ戻って、お礼を言おう」と言いました。ところが、九人の人たちは、「まずこの体を祭司たちに見せに行こう。そして、癒された事を認めてもらおう」。「それから、急いで、イエス様の所へ戻っても遅くない」、と言いました。すると、サマリヤ人は、「祭司に認めてもらうとか、そう言うことではなくて、それよりもまず、イエス様の所に帰って、お礼を言おう」、と言いました。病気が治ったことについて、十人の人たちが一人と九人に考え方が分かれてしまいました。九人の人たちは、イエス様にお礼をするよりも、祭司たちのところへ行くことを選びました。

サマリヤ人は仲間たちと別れて一人でイエス様にお礼を言うために戻っていきました。彼は、神様をほめたたえながら帰って行きました。帰りながらうれしくて、道を走ったり、立ち止まってジャンプしてみたり、又、両手を天に突き上げたりしました。また大きな声で、「ハレルヤ、アーメン」と叫んだり、歌ったりしたのでした。この人は、イエス様の居る所に戻って来ました。そして地面にひれふして、「ありがとうございました。ありがとうございました。あなたのおかげで私の病気は治りました。お礼が言いたくて戻ってきました」と大声で言いました。イエス様はこの人を見て、やさしく、ニコニコしていました。でも少し悲しそうに、こう言いました。「治ったのは十人じゃなかったのかね?ほかの九人はどこにいますか?」それからこの人に、「立って行きなさい。あなたは私を信じたから治ったのです」と言いました。イエス様は、十人全部を愛していました。そしてその人たちがイエス様を信じたので、みんなを治してあげたのです。ところが帰って来て、イエス様に、「ありがとうございました」とお礼を言って、イエス様を喜ばせたのは、ひとりだけでした。

❑結論　神様に感謝をささげたのは一人でした

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

1. 今日のお話しの十人は病気が治ってから出かけたのではなく、イエス様のお言葉を信じて従って行きました。すると、その行く途中で病気は直ったのです。みんなも、イエス様に教えられたけれど、まだ、従っていなかったことはないでしょうか。または、イエス様のお言葉に従っている途中ですが、もう従うことを、やめようかどうか迷ったりすることはないでしょうか。いまイエス様に従い続ける決心をしましょう

2. 皆さんはお祈りの中で叫ぶという経験があるでしょうか。今日の病気の人のように、本当に「この時だ」と思う時には、大きな声でイエス様にお祈りをしてみましょう。彼らの病気が治りたいと言う気持ちが「イエス様」と大きな声で叫ぶ行動になりました。みんなも自分の問題などで本当に苦しくて神様に助けてもらいたい時、お祈りの中で真剣に神様に叫び求めていきましょう。

3. 今日のお話しを聞いて、みんなは、すぐに感謝をささげた人と、あとで感謝をささげようと思った人の、どっちの人になりたいと思いましたか?もちろん、すぐにイエス様に感謝をあらわした人ですよね。みんなの生活の中でイエス様がお祈りを聞いてくれたこと。イエス様が助けてくれたこと。いろいろあると思います。いまイエス様が自分にしてくれたことを思い出して感謝のお祈りをしましょう。

教　師　ノ　―　ト

日付	2014年　3月30日
単元	ルカの福音書
テーマ	救い
タイトル	イエス様に出会ったザアカイ
テキスト	ルカ19：1－10
参照箇所	

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
　ルカ19：10

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
　幼 2 題 2 課 11、小下 2 題 2 課 6、中 1 題 4 課 11

❑導入

　今日は、ザアカイさんという人のお話をします。ザアカイはお金持ちでした。でも、ザアカイは、みんなに嫌われていました。そんなザアカイさんがイエス様とお会いをするお話しです。

❑ポイント1　ザアカイさんはイエス様を見に行きました（1－4節）

　ユダヤのエリコと言う町に、ザアカイさんという人が住んでいました。ザアカイさんのお仕事は取税人の頭でした。取税人というのは、税金を徴収する仕事をしていた人のことです。今の言葉で言うと、税務署の役人さんと言えます。しかもその頭ですから、税務署長ということになります。しかし、ザアカイさんが仕事としていた取税人と、今でいう税務署長とはだいぶ違っていました。当時の取税人は、多くの人たちの恨みを買ういやな仕事でした。ザアカイさんが住んでいたユダヤは、ローマ帝国という大きな国に支配されていました。ですから、ユダヤの人たちはローマ帝国に税金を納めなければなりません。その税金をローマに代わって取り立てていたのが取税人です。取税人は同じユダヤ人から税金を取り立てていたので、裏切り者と人々から思われていたのです。しかも、ローマ帝国のために税金を取り立てるだけでなく、人々から余分に税金を奪い取って、その余りを自分のポケットに入れ、お金もうけをしていたのでした。取税人たちは、不正をしていたということです。そのようなことから、取税人は、多くの人たちから恨まれ、嫌われていました。それだけでなく、取税人は犯罪者と同じように、罪人というレッテルを貼られ、ユダヤ人たちからは、差別をされていたのです。普通のユダヤ人は、取税人の家に入ることも、食事を一緒にすることもしませんでした。

　そんな、彼の毎日の生活の中で、ある出会いが始まろうとしていました。彼はある噂を聞いたのでした。あのイエス様がこのエリコの町に来るというのです。イエス様は、ザアカイさんと同じ取税人を、自分の弟子にした。と聞きました。また取税人や罪人と言われている人たちと食事をしている。とも聞きました。そして取税人を嫌わずに、同じ人間として接してくださるお方であると聞いたのでした。そのうわさを聞いたザアカイさんは、いても立ってもいられなくなって、とにかくイエス様を見てみたい。と強く思いました。そしてすぐに出かけました。

　ところがたくさんの人たちも、同じようにイエス様をみたいと思い、集まってきていました。道路はもう動くこともできないほどに多くの人でいっぱいです。それでも、ザアカイさんは、あきらめませんでした。とにかく人込みをかきわけて前のほうへ、前の方へと進もうとするのですが、なかなか場所があいていませんでした。ザアカイさんは、背がとても低かったので、なんとしても前のほうにいかないと、イエス様を見ることが出来ないのです。彼はそれでもあきらめませんでした。ザアカイさんは考えます。「そうだ、みんなと同じ所にいるから行けないんだ。人と違う所へ行こう。高い場所に行こう。高い所に登ればイエス様を見れるぞ」。ザアカイさんは周りの人たちを気にすることなく、今度は、いちぢくの木に登りはじめました。とにかくイエス様を見たい一心でした。彼はやっとのことで、イエス様を見ることのできる位置をキープしました。すると。

向こうのほうからイエス様がやってきました。

❑ポイント2　イエス様はザアカイさんに声をかけられました（5節）

　イエス様を真中にした大勢の人たちが、近付いて来ました。ザアカイさんは何だか胸がドキドキして来ました。とうとうイエス様を見ることが出来るのです。行列はだんだん近づいて来ました。そして遂にザアカイさんの登った木の真下にイエス様が来られました。ザアカイさんはイエス様の言われる事を全部聞こうとして、木の上でじっと静かにしていました。ここでザアカイさんが考えていなかったことが起こりました。イエス様が立ちどまり、上を見上げ、なんとザアカイさんに声をかけられたのです。「ザアカイよ、急いでおりてきなさい。」「きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」と言って下さったのです。この時イエス様は「そこのきみ」と言ったのではありません。また「おい、その木の上の人」と言ったのでもないのです。イエス様は、ザアカイと名前を呼び、ザアカイの家に泊まられるのです。ザアカイさんは自分の耳を疑いました。それは当然です。イエス様が自分の名前を呼ばれたのです。どうしてイエス様は名前を知っておられたのでしょう。ザアカイさんにはわかりませんでした。けれどもうれしさのあまり、登る時よりも、もっと速く木から滑り降りて、イエス様の前に立ちました。

❑ポイント3　ザアカイさんはイエス様を自分の家にお招きしました（6－10節）

　そして喜んでイエス様を自分の家にお迎えしたのでした。もちろん、大勢の群衆はこの事を全部見ていました。そしてだれもが、イエス様がザアカイの家へ行かれるというので驚いていました。ある人々は、怒ってさえいました。なぜですか?それは多くの人たちはザアカイさんを嫌いだったからです。ザアカイさんが取税人のかしらで悪いことをしていたからです。「イエス様が、ザアカイのような罪人の家へ行くのは、どういうわけだ。」と人々はお互いに言い合っていました。

　しかし、イエス様はその事を気にもとめられませんでした。ザアカイさんも同じでした。イエス様はザアカイの全てを知っておられました。彼の犯した罪、彼の家にある財産の数々が、その罪の結果であることを知っておられました。しかし、ザアカイさんもまたイエス様を迎えたのでした。つまりありのままでカッコつけることなく、イエス様を彼はお迎えしたのでした。

　ザアカイさんはイエス様に「主よ、私は財産の半分を貧しい人にあげます」と言いました。それを聞いた人たちはビックリしました。続けてザアカイさんが「もし誰からでも税金を余分に取り立てていたら、それを四倍にして返します。」と言いました。ザアカイさんが言い終わると、イユス様が言われました。「きょう、救いがこの家にきた。人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである。」これは「ザアカイ、あなたの罪は、今日赦されました。私があなたを見つけて救ったのです。あなたは罪から救われたのです。私がこの世に来たのは罪人を捜して救うためです。」という意味です。

❑結論　ザアカイさんはイエス様に出会ってかえられました

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

　イエス様はザアカイさんの名を呼び、家に泊まって下さいました。このイエス様は、今日、あなたの名を呼んでいます。そしてあなたの家にとまりたいと願っておられます。あなたの心という家にイエス様をお迎えしませんか？イエス様、私を新しく造り変えてください。いつもイエス様によって元気のある人に変えてください。チェンジさせて下さい。いま、あなたを私の心にお迎えします。私には、罪があります。イエス様、この罪を全てゆるして下さい。と祈りましょう。イエス様はあなたのそのわるいこと罪のために十字架に掛かって死んでくださったのです。イエス様があなたのかわりに罰を受けてくださったのです。イエス様を信じるならばあなたのその罪は赦されます。